

令和5年12月東近江市議会定例会提出請願文書表

番号	受付年月日	請願者	紹介議員	付託委員会
6	令和5年11月24日	東近江市永源寺相谷町1378 愛知川漁業協同組合 代表理事組合長 村山 邦博 ほか1人	西村 和恭 鈴木 則彦	産業建設常任委員会

請願の内容

令和5年8月15日から今日まで続く愛知川の濁水の抜本的な改善を求める請願書

【請願趣旨】

かつての愛知川はきれいな川石をぬってきらめく清い水が流れ、その中に踏み込んだ足には、多くのアユが触れるほど「自然豊かで美しい自慢のふるさとの川」でした。

ところが、現在はそのような光景には程遠い嘆かわしい川の状況が近年続いています。

特に今年は、8月15日に接近した台風7号、そして8月23日から24日の未明に降った降雨により、現在（請願時提出の11月24日）までの間、一度も川底が見えるまでの清水が流れることなく「透明感のない濁った水」が流れ続けています。いうまでもなく東近江市の誇るべき名刹「永源寺」の直下の旦度橋付近では「茶色になった濁水」が滞留し、訪れる観光客のみなさんの前に観光地として見るに忍びない風景をさらしています。

「濁水」の発生原因は、異常気象による集中的な降雨、様々な要因による上流部の山地の崩壊など複合的な原因が作用し、これが「永源寺ダム」の貯留水を濁らせ、ダム下流に長期間にわたって愛知川を濁らせていることは誰もが知るところです。今回、請願させていただいている期間の初期段階はまさにこの原因でありました。

ところが、今年、当請願の表記の通り3か月にわたってダム下流部では濁水状態が続いています。

原因を探るため、上流に向かいダムへの流入水をたどると、濁水の原因が明白になります。原因は、ダムの管理のため貯水位を下げられるため、ダム湖に堆積した「泥の層」が露出、これに流入水が当たったり浸食したりして、濁りが連続的に発生し、ダム湖を「茶色」に染めているのです。

現在のダム湖の水は「茶色」そのものになっており、澄んだ表面水を流すといった手法は全く用をなさないほど濁っています。

濁水は泥分を下流に流し、愛知川のイメージを低下させているだけでなく、河川の魚類を中心とした生物に多大な悪影響を与えていると思われます。実際、8月15日から漁期の9月30日まで愛知川本流への入漁者は「0」でしたし、鮎の産卵環境を直撃しており、その影響は多大と考えられます。「世界農業遺産」「環境県」を標ぼうする滋賀県にとって看過できない問題として、長期的な視点にたった対策を講じていただくことはもちろんのこと、緊急的に実施できることは早急に実施していただき、現状の改善が図られるよう、下記の事項の取り組みを国並びに滋賀県に強力に働きかけられたい。

## 【請願項目】

- 1 現状の永源寺ダム下流の「濁水の長期化」の状況を把握していただき、堆砂対策を中心とする「近江東部事業」の全体計画の中にダムから放流される濁水対策を盛り込まれたい。特に、次の四点を盛り込まれるよう国に働きかけられたい。
  - ア 永源寺ダムへの流入水は、増水で濁っても一週間もすれば清水状態になります。この清水を直接下流に放流できる対策を講じられたい。
  - イ 永源寺ダム湖の澄んだ「表面水」が的確に取水できるよう、ダム堤体の取水施設の改善を図られたい。
  - ウ ダムの管理上、ダムの貯水を減少させる際、先述のようなダム湖内での「泥水」の発生が起こらないよう緊急的な対策を講じられたい。
  - エ 永源寺ダム湖から下流は川石、川砂の供給がなく、河床低下を招いているとともに、河川の流水の浄化作用が無くなっているため、永源寺ダムの堤体の直下に置き砂、置き石などの工法を取られたい。
  
- 2 永源寺ダムの管理運営を行っていただいている滋賀県として、例年、必要に応じて堆砂の搬出を行っておられるが、2024年はダム湖流入部分の泥の層の緊急撤去を願いたい。